ミニ懇談会報告書

申込者：しろい梨観光組合
テーマ：「梨農家の今後と課題」
日　時：令和2年1月23日（木）　午後4時～午後5時30分
場　所：白井木戸　天神社
出席者：しろい梨観光組合：23人
　　市議会議員：田中議員、秋谷議員
　　市側：笠井市長　秘書課長ほか2人
進行：田中議員
挨拶：笠井市長

【代表者あいさつ】しろい梨観光組合

市議会議員の田中和八さんと秋谷公臣さんがこういう場を設けて、市長と話をしようじゃないかと。

また、去年、笠井市長になってから、私は所信表明も何も聞いていないので、これを聞く機会でもいいかなと。だから、皆さんもこれからのこと、白井の農家のこと、土地のこと、そういうことを色々考えてもらいたいし、また、ざっくばらんに市長と話をしてもらいたい。そういう場で今日は設けました。

今日の進行役は、申し訳ないですけど、市議会議員の田中和八さんにお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【進行あいさつ・職員紹介】：田中議員

本日はお忙しい中、笠井市長とミニ懇談会でいろいろなお話をしていただこうというような場を設けさせていただきました。進行いたします市議会議員の田中和八といいます。よろしくお願いをいたします。

最初に、市長を初め、市側の職員さんをご紹介させていただきます。

（各出席者自己紹介）

今日は、全て座ったままの質疑、説明になりますので、あわせてご理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

本日のミニ懇談会は、約1時間半、午後5時半ぐらいを目途に行わせていただきます。それでは、早速ですけれども、初めに、市長になられてどのようなまちづくりを目指していくのか。そういう考えも含めて、笠井市長にご挨拶をお願いいたします。

【市長あいさつ】：笠井市長

皆さん、新年、だいぶ経ちますけれども、おめでとうございます。

また昨年は、台風等の自然災害、大変ご苦労さまでした。また、今年も日本の国では2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

それと一方では、昨年のような自然災害というのも考えられますので、私はまず今年は、日本がこれからどう変わっていくのか。そして、自然災害に対してどう対応していくか大きな転換を迎える年と考えております。

白井市においても、ずっと人口が増えてきたわけですが、ここに来て人口減少に入ってきました。今現在が6万3,300人。予定ですと6万4,000人を超えている予定だったのですが、それがなかなか達成できない。一方で、高齢者、65歳以上の方がどんどん増えてきています。そして、ニュータウン事業でもう40年経ちますので、道路、施設、いろいろなものが傷んできていて、改修時期に来ています。

こういう中で、私は、日本も白井もこれから転換期を迎えて、新しい地域づくり、まちづくりをやっていく時期に来ていると感じております。そういう厳しい中で市長になったわけですから、どうやってこのまちをもっと今よりも良くしていきたい、この辺について、お話をさせていただきたいと思います。

今回は資料を作らせていただきました。農家の皆さんが、何が一番課題となっているのか。いろいろな資料を分析しながら、今の国の実態、白井市の実態について、まずはお話をさせていただいて、そして、これからどのように農業を維持、発展していくかについてお話をさせていただきます。

まず資料、皆さん、お手元にありますか。１枚開けていただきますと、ちょっと大きな話なのですが、国の施策から入ります。

3ページをお願いします。

まず、国の施策から、食料・農業・農村の基本方針であります。国も農業については守っていかなければいけない立場であります。特に、食料については国策です。国がどのように食料・農業・農村を考えていくか。これが一番重要な部分に入ってくると思います。そこで、食料・農業・農村基本法があります。食料、農業及び農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進することで、国民生活の安定向上及び国民経済の健全な発展を目的とするということで、これが食料と農業と農村の基本方針の一番の目的です。これに基づいて、国は食料だったり、農業、農村について進めております。

具体的には、食料・農業・農村基本計画、食料の安定供給の確保、農業の持続的な発展、農村の振興に関することが定められています。

4ページをお願いします。

この食料・農業・農村基本計画の中身の話を若干させていただきます。一つは、一番大きいのが、食料・農業及び農村に関する施策についての基本的な方針がここにうたわれています。この計画は、平成27年度に政府がつくった計画です。その中で、食料の自給率の目標が掲げられています。次が、食料と農業及び農村に関する政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策について定められています。

5ページをお願いします。

具体的な中身でございます。食料の自給率の目標です。今の計画では、令和7年、2025年に供給熱量ベース、自給率、これを45%にしようということで農業施策を進めています。実態はといいますと、平成30年度が37%で国が音頭をとって進めている割には、実際は低下しているという、こういう状況であります。ですから、今、国は新しい計画、5年間の計画の見直し作業に入っています。ちょっと調べてみましたら、農地面積も平成27年度が483万ヘクタール、これが442万ヘクタールに変わってきています。483万ヘクタールが442万ヘクタールに減ってきています。農家の就業人口も389万人から175万人に減ってきています。当然、目標をクリアしていませんので、農地も農業も減っていると。計画を立てながら、こういう実態にあります。

ですから、これは国としても、農業施策に対してどういう一手を打っていいかがわからないのが現実です。国民については、今後、食料について日本の国で賄うことに対してどう思っていますかということで、83%の方が不安に思っていると。これからも日本のものが食べられるかについて、不安に思っているという実態がございます。

6ページをお願いします。世界の食糧の自給率をここで調べてみました。

日本が37%、アメリカは130%です。フランスが127%、ドイツが90%。先進国において日本だけが自給率が低い。今は、いろいろなものが安定して輸入品として入ってきます。しかし、これから日本の人口が減っていきますが、世界の人口はこれから増えていきます。特にアフリカ、中国、インド、この辺がどんどん人口が増えていきますと、なかなか輸入品が日本に入ってこないというような現象が今後考えられます。ですから、国としても、食糧事情は、やらなければ絶対にいけない対応策だと思っております。

国の政策、7ページです。

国の政策は全部で８つあります。農林水産物・食料品の政府の一体となった輸出力の強化と高付加価値化、スマート農業、担い手への農地の集約、水田のフル活用、食の安全・消費者の信頼確保、農山漁村の活性化、林業のリノベーションなど、こういうような目標を掲げていて進めているのですが、実態はといいますと、先ほど言いましたように、実際は減っていると。ですから、決め手がないのが現実です。皆さんに言わせれば、農家の意見を聞いていないと。それが政策に反映されてないから、こういう実態になっているというようなことと思います。

この間、ＪＡの人たちと各首長が集まって、これから政府が計画の見直しをやっていますので、そこに要望書を提出しました。こういう事業、こういう補助金をつくってほしいという要望書を今出して、これに基づいて、国もその要望書、いろいろな意見を踏まえて、計画を見直している状況であります。ここまでが国の話です。

では、白井市の農業はどのような現状か、どのように考えているかといいますと、8ページになります。

ここは説明しなくても皆さんわかると思うのですが、梨については、明治の時代から100年を超える歴史があって、千葉県でも白井市の梨というのは、面積的、量的にも1番となっています。そのほか野菜では、ネギ、大根、ホウレンソウ、芋類、落花生などがあります。それと、冬には自然薯が今、特産品として農家さんがつくられております。

次、お願いします。9ページ。

実際、今の農家さんの現状です。白井市の人口が6万3,329人。そのうち農業従事者が1,296人、総農家数が617戸、梨農家が205戸になっています。畑の面積が199ヘクタール。果樹園が298ヘクタール、水田が203ヘクタールになっています。この丸い円が実際の内容になります。

10ページお願いします。

実際に、農家はこの20年、どのように変わってきているのかということで現状の推移を調べてみました。平成2年は農家数が898戸、農家人口が4,582人、最新のデータで平成27年度の農家数が617戸、農家人口が1,296人、経営耕地面積が3割も減っております。当然、梨栽培面積についても、平成2年が3万2,473アール、それが2万5,952アールに減っている。皆さんも実際あると思うのですが、白井市においても農家の後継者がなかなか育っておらず、面積も縮小されている実態でございます。

それで、農家の方にアンケートを行ったデータが11ページです。

これは平成27年度に、まち・ひと・しごと創生戦略計画をつくる際に、農家の方に行ったアンケートでございます。農業者のうち、耕作していない農地を保有している人の割合は72.6%。耕作していない農地について、今後も耕作意向がない人が48.6%いるという実態です。そのうち、売りたいという人が26%。農地として貸したいが22.6%となっていると。現状、後継者がいないという実態です。

それで、農業者のうち、「後継者・担い手がいる人は」という質問に対しては28.7%で、いない人は43.5%となっています。その中で、「後継者・担い手の確保に必要な取り組みは」、という設問があります。販売ルートの確保など、農業収入の向上が37.6%。次に多かったのが、後継者・担い手や新規就農者などに対する支援の充実が16.5%となっています。

「今後、今の農業をどうしますか」と、経営意向についても確認をしています。拡大したいが7.2%、縮小したいが26.6%、現状のままが62.4%というアンケート結果を得ています。

そして、白井の農業施策に期待することの設問では、「農業の必要性・重要性に対する市民の理解の醸成を図ってほしい」が11%で一番多かったです。その次に、「後継者・担い手の育成」が10.2%。さらには、「市民の農業への理解の醸成」を初め、「耕作していない農地の活用」、「後継者・担い手の育成」や「農業収入の向上が必要」ということがこのアンケート結果では見受けられました。

さらに、農家の高齢化が進んでいます。60歳以上の方が約6割。今の農家の人たちは60歳以上が

6割を占めている。ですから、国と同様に耕作面積はどんどん減っていながら後継者はいない、現役農家の人たちの高齢化が進んでいるという実態がここで明らかになってきております。

そういう中で、市はどのように考えているのかということです。私の公約についても後ほど話をしますが、まずは、白井市の一番上位計画にあります「白井市第5次総合計画」。これは2016年度から2025年度までの10年間の計画を白井市は持っています。その中で農業をどのように位置づけをしているか。基本構想3のまちづくり基本的視点では、農・みどり、「農」を中心とした産業、豊かなみどりや河川が快適さや活力を生み出すということで位置づけをしております。基本的な構想としては、この白井市というのは、都心から近い割には緑が多く、緑の中でも農地がまだまだ残っており、これを後世にも残していき活用していきたいということが、ここに位置づけがあります。

13ページお願いします。

では、具体的な戦略がどうなっているのか。これが前期と後期に分かれています。基本構想は10年間で前期が5年間、後期が5年間に分かれていまして、前期基本計画では2016年度から2020年度までなので今年で終わるわけですが、その中で農業の施策の位置づけがあります。

具体的には、2つ。農業をまちの活性化の資源として積極的に支援し、産業が連携する活力があるまちづくりを進めます。こういう方向性を示しています。さらに、農の持つ多様な機能を生かして、白井市のイメージを魅力的にアピールするため、子どもから高齢者までの農を体験できる取り組みや、にぎわいづくりを進めます。こういう方向性を5年間の計画では示しているところです。

これに基づいて具体的な取り組みですが、1つは、多様な形態の農業経営と担い手の支援。2つ目が、農商工連携による農産物の高付加価値化やブランド化。3つ目が、駅周辺や地域における農産物の販売の場づくり。4つ目が、誰もが農業体験できるプログラムの実施や農に親しめる環境づくりということを掲げて、具体的な事業としましては、援農ボランティアの育成・就農支援事業、農産物ブランド化推進事業、農産物流通販売拡大事業、市民農園・体験型農園設立支援事業などに取り組むと、こういう位置づけで事業を進めています。

そして次に、14ページは、具体的に今、梨農家さんが中心ですけれども、どういう人たちがこの農を盛り上げているかという。これは具体的な組織をここで示してあります。

1つは、白井市梨業組合。会員、組合員数が156名。2つ目が、しろい梨観光組合。組合員数が26名。白井市自然薯研究会、会員数が10名ということで、こういう方たちが具体的に、梨や自然薯についていろいろ勉強をして、付加価値、ブランド化、それと梨についてのいろいろな対策を検討していると。

次に15ページが、そのほかにも農業研究会、加盟団体11団体（梨、ぶどう、野菜、自然薯、畜産）、農産物加工研究会、会員が23名でこれは農家女性が中心になっていろいろな取り組みをやっていると。

16ページが、梨生産者の研究組織。これは若い人たちが、これからの農業についていろいろな利益や販売、ＰＲについて勉強をやっています。21世紀梨づくり研究会、約30名。それと、梨友会、これも約30名。それと、しろい梨ＰＲ委員会。こういうような次の世代の人たちが、自分たちの梨について、いろいろな勉強なり、これからについて進んでいるところであります。

17ページお願いします。

具体的に、梨に特化したブランド化推進事業については、説明しなくても皆さんわかると思うのですが、東京中央卸売市場、豊洲での梨のＰＲ。Ｊリーグ柏レイソルの試合日における梨のＰＲ販売。友好交流都市福島県伊達市のだてな太鼓まつりにおける梨のＰＲ販売。しろい梨ＰＲ委員会が、白井駅前で梨のＰＲ販売をするなど、いろいろなイベントを通して、白井市の梨についてＰＲをして、消費者にアピールをしていると。

18ページお願いします。

梨ブランド化の推進事業については、いろいろな関係機関、千葉県の印旛農業事務所、そしてＪＡ西印旛、白井市とともに、いろいろな人たちと連携をしながら、白井の梨、生産的なよさ、質的な

味、これについていろいろアピールをしています。
19ページお願いします。
そして、2018年には、もっと白井の梨というものを市内外にアピールしたいということで、2018年に白井の梨のブランド化推進計画を策定いたしました。この計画に基づいて、具体的なアクションプラン、行動プランをこれから進めていきます。
その中でも、価格形成に向けた品質と量の確保。それと、シティプロモーションと連動した認知度の向上、立地やニーズに即した新たな顧客の創造などを掲げて、具体的にどういう事業をやるかということで、令和2年度予算にもそれは盛り込んであります。
以上が、白井市が今までやってきました農業、特に梨について、お話をさせていただきました。ここからが、自分が市長として、この農業について、どう進めていくかという話であります。
私は選挙の中に、地産地消というものを大きな柱に入れてあります。白井で出来たものを市民が食べて消費すると。こういうような取り組みを進めていきたい。さらには、白井が持っている、梨は千葉県でも有名ですし、全国でも梨は有名です。ですから、この梨をもっとブランド化を進めて付加価値を与えて、梨をもとに農産物の発展できるまちをつくって行きたいと思っています。そういうような部分で公約に掲げております。これについては、これからつくります後期基本計画。2020年度で前期基本計画が終わりますから、2021年度から始まる計画の中に、具体的にどういう取り組みをしたらいいかということを考えていきたいと思います。
今日は、せっかく直接、梨をつくっている皆さんがいますので、具体的にどういうことをやれば、もっとこの白井の梨、農産物、農業が更によくなるのか、率直な意見交換をしていきたいと思います。その中で、市としてできるもの、皆さんが実際に行動するものについて、いろいろ議論が深まればいいと思います。
先ほど、いろいろお話がありましたけれども、国も県もそうですけれども、何とか農業というものを維持していきたい、農地を守っていきたいのが、今、国なり県なり白井市の施策であります。これは私も同じように、白井市が持っている資源として、農業、特に梨、そういうものをいかに次の世代に繋げていくか。これを進めていきたいと思っております。
私の説明は、以上で終わります。あとは、いろいろな御意見をください。

○田中議員　ありがとうございます。今、市長のほうから、この資料に沿ってご説明があったのですけれども、その中で聞きたいことがあれば、ぜひお手を挙げていただいて、活発にご意見を言っていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○笠井市長　自分の方から聞いていいですかね。皆さん、梨をこれからも続けて行こうと思う方は、どのぐらいいるのですか。そうですよね。
やっぱり梨というのは、自分はこの白井市にとって大きな財産だと思いますので、できれば、そういう人たちを応援していきたいし、いろいろな人たちと協力をしていきたいと思うのですが、そういう中で何かお困りのこととかがありましたら、お願いしたいのですけれども。何でもいいですよ。

○しろい梨観光組合　今は、農家を続けたいという人が結構いますけど、それは自分の代であって、果たして子どもが全部やってくれますか。それが一番問題。子どもたちが喜んで、楽しんで継いでくれるか。そこまで自信ありますか。ただ、俺から見れば、農家は今のところ魅力ないと思う。というのは、一番は収入がない。それが一番影響していると。だから、皆さんがやっているのも、そうやっていても、子どもに果たして、跡を継ぎなさい、社員並みに給料、例えば10万や20万あげます、それができますか。そこが一番引っ掛かっているのではないかなと。

○笠井市長　これは恐らくそういう悩みがいっぱいあるのです。今おっしゃったように、労働時間の

わりには、収入が安定していない。特に野菜というのは、台風やいろいろな水害、弊害で安定した収入がない。これが一つあると思います。その中で農業をどうやって守っていくのか、安定した収入を確保できるのかということは大きな課題で、これは国でもよく、この間も議論があったのですけれども、もう少し、輸入品の関税もそうだけれども、自国の農産物に対しての助成なり補助金を上げたらどうかという人達もいました。ただ、これは今後、さっきも言ったように37%しかなければ、もし干ばつが外国で起きた場合、日本に入ってくることも約束できませんから、これは国策として、いろいろな制度、支援策というのを考えていかなければいけないし、市としても、大事なものというのを守っていかなければいけないと思っています。でも、これは何かいい案ありますか。

○しろい梨観光組合　地産地消という話、もちろん皆さん知っていると思うのですけれども、白井の場合は、給食センターがここで新しくなったのですけれども、白井の耕作放棄地に、もっと皆さん、手はあるけれども、例えば旦那が亡くなってしまって機械使えないから農家やめたとか、そういう人も中にはいます。それで、何とか入札ではなくて、白井市の野菜農家の皆さんが共同で野菜をつくって、優先的に給食センターに納められるとか、下準備もするようなところまでできるとか、そういうこともすれば、耕作放棄地はもう少し減って、収入も小遣い程度にもらえるよということであれば、農家嫌いではないよという人もたくさんいると思うので、できれば給食センターに納められるようなシステムがあってもいいのかなというようなことを普段考えています。

○笠井市長　ありがとうございます。それはいろいろな人に聞きます。ただ、給食センター側に言わせると、一定量を確保することが非常に難しいということで、それが中間で誰かやってくれるのであれば、できるということなのですけれども、そこは今後の課題として。国もやっているのは地産地消、国で消費する、国民も食育を進めていく、国の食べ物を国民が食べるということが、今これから進めていきますので、当然、市においても、地産地消、食育というのは進めていかなければいけないと思っています。

○しろい梨観光組合　それをやった限りは、今度、責任が生じるので。

○笠井市長　そうですね。

○しろい梨観光組合　農家の皆さんは、そこまで覚悟ができないんですよね。足りなかったときにどうするのという話になって。

○笠井市長　そうなんですよね。だから、どうしても大手に頼んでしまう傾向がありますね。

○しろい梨観光組合　誰かがその大手になって、市内の業者をまとめてくれれば一番いいのですけれども、なかなか。そういうようなこともできれば、一番です。

○笠井市長　そうですね。一番いいのは、わざわざ市場に出すとか、遠くまで物を運ぶのでなくて、近くの人たちに一定の価値で売れれば一番いいわけですよね。うちの親も、80歳まで市川に行商に行っていました。一番いいのは、白井のニュータウンの中に行商に行ければいいのですけれども、なかなかお客さんがいないということで、80歳だと運転も危ないですよね。だから、80歳になって辞めてもらったのですけれども、本当は、消費者が近くにいることが一番いいのではないかと思っています。

○しろい梨観光組合　それから、ドライバー不足でもあるし、わざわざ行かなくても、近いところで

というのは、皆さん、考えている。

○笠井市長　そうですよね。これからいろいろなお店、スーパーなんかができれば、白井のものが置いてもらえるように、そこは進めていきたいと思っています。

○秋谷議員　今、給食センターの話だけで言うと、給食センターは4,000人、5,000人分の生徒の分というと、例えば農家1戸当たりでニンジン500キロ、600キロをとったということではなくて、その量といったら何トンなわけで、そうすると白井市の、例えばニンジンならニンジンをつくっている農家を全部集めても1日分しかないとか、そんな状態なので、給食センターとしては、一律なものを頼むとなると、外国製品が多いのだと。例えばカボチャでも何百個とかを一気に仕入れとなると、日本では、千葉県の農家全部から集めるのだったらいいのだけれども、白井市ではとても賄いきれないという話を伺ったので。そうすると、うちの平塚でも、個々に桜台の中学校に納めているのを、例えばその日だけとか、長続きはしないので。そうすると、頼むほうも、継続的に頼むのだったら、それだけのものを扱える業者というと、1日だけ白井の梨農家さんへ200個お願いしますというのだったらできるのだけれども、継続的に、梨に限らず、野菜でもキャベツでも何でもいいのだけれどもというと、やっぱり業者しかないという話は直接伺いました。

○しろい梨観光組合　タマネギだとかニンジンというのは、相当の量使うでしょうからね。

○笠井市長　そうですよね。今、秋谷議員さんが言ったのが現状です。けれども、先ほどありましたが1日でもいいからということになってくれば、変わるわけですよね。本当は一番いいのは、6,500食、子供たちの給食が白井のもので全部賄い切れればいいのですけれども、実際的には量も数も足らないとなってくると、せめて1回か2回は地元のものを卸すような工夫というのも考えられますので、そこまで、給食センターとはいろいろな話をしていきます。

○田中議員　それと、品種の種類を絞って多くつくるというのも一つの手かもしれませんよね。何種類もということではなく、採算に合いそうな野菜を集中的に。

○しろい梨観光組合　そもそも野菜でいえば、相当の種類あるわけですから。例えば、インゲンだとかそういったものは時期に少しとか、あるとは思うのです。ニンジン、タマネギ、ネギだとか、そういうのは、秋谷議員さんが言われたように、絶対足りないのでしょうけれども、他のものも多少はありますよね。

○笠井市長　結構、白井の農家は、行商に行くから、いっぱい種類つくるよりも、いろいろな品種をつくってやっているのですよね。他にもどんどん、いいですよ。自分の答えられる範囲で答えますので。

○しろい梨観光組合　地産地消はいいけれども、単価が高くなるなら、今度、子供たちとか親から不満が出るのではないのですか。高く買ってくればいい話であって。逆の人もいるわけだから。ロットの小さいやつを集めて無理してつくっても、規格外とかいろいろなものあると思う。今度、高く買うわけですよね、それを。

○笠井市長　そうですね。

○しろい梨観光組合　そうすると、今度、消費者のほうから苦情が出るのではないですか、そういう

のは。そういうのはどうなのですか。

○笠井市長　そのとおりだと思います。ですから、日本の製品が外国に勝てない。これは、さっき一番初めに言いましたけれども、輸入で関税を今どんどん安くしていますから、その分、日本の農産物に対して、助成するなり補助金を出すなりして、安定した価格で確保しなければいけないと思うのです。これというのは、市町村単位ではなくて、国として、日本の国の食料というのをどう守っていくかだと思います。そこについても、これはいろいろな機会の中で、ＪＡもやっていますし、市長会でもそういう話はさせてもらいます。さっき言ったように、白井だけが農家が減っているわけでもなくて、国全体が目標を掲げているのに、いろいろなことやっている割には減っているという実態がありますので、次の計画は、具体的に自給率を上げるための具体策がなければ、いつになっても解決できませんので。

○秋谷議員　梨だけの個別の話になるのだけれども、梨農家は年に10回から20回近くは、もちろんスプレーは回すのだけれども、風間地区などもそうなのだけれども、隣近所から、かなり苦情が多いのです。朝早くかけると、朝早いと。夜遅くやれば、夜眠れないとかというので、私は、夜仕事やって帰ってきたのに、朝5時、6時からスプレーかけるなという話で。そうすると、その対策としては、できれば市に間に入ってもらって、白井市は梨の生産地なのだから、その生産地の隣にあとから家を建ててきたので、梨農家は薬をかけないとだめだとか、肥やしをやらないとだめだから、臭いとかという苦情は・・・という。俺はできれば、梨組合で看板を立てるのではなくて、市で、「白井市は梨農家が多いので」という看板を立てて、苦情の一つも減らしてほしいというのは、そういう思いがずっと前からある。直接、農家が、新しく来た人から苦情言われるのもそうだし、その人は農家に言いたくないから、市の環境課とかに電話すると、梨の農家に、今度、市から電話が来たりすると、例えばその苦情を受けつけたりなんかしている俺たちがそれで悩んでいるのを見て、そこに座っている子供たちが、跡を継ぐかという話にもなるので、細かな話だけれども、率先して市が、もし梨のまち白井と言うのであったら、あちこちに、梨が産地でブランド化を図っているという事情があるので、せめて薬がけの3、4、5、6、7、8月とか。秋にもかけるけれども、その辺のところは。例えば、通学路で薬かけているのを見ると、通学の子供たちや親たちからも苦情が来る状態なので、できれば通学時間の時にも、もちろん、梨にかけなければいけないのだけれども、その辺のところもできれば一言、看板立てるなり、広報で言うなり、皆さんに、農家にかわって実際は言ってほしいというのがある。そうすると、少しでも梨農家の方の悩みが減るので。平塚でもそうなのだから、多分こちらのほうでも。警察呼んでしまう人もいるくらいだから、朝早くかけると。

○しろい梨観光組合　市役所が仲介役ではなくて。

○秋谷議員　積極的にやる。積極的に、新しく白井市に住んで来られた方に、白井市というのはこういうところなので、薬はそんなに害がないのだということを言ってもらう、そういうのをつくってもらえないかというのが。

○笠井市長　はい。これは根本的な問題は、住宅地と梨畑が繋がっているからなのですよね。これからもこういう問題は起きると思うのですよ。もう梨農家ができないから、この辺でやめてしまおうとなってくると、こういう問題がどんどん起きてしまうのですよね。そのために、きちんとした都市計画をつくる。ここは緑、梨を守る地域ですよ、さらに、ここは住宅地域ですよということで、そういうふうに明確にしていけば、一番いいのですよね、ハード面では。けれども、それが今、混在してしまっている部分があって。

○秋谷議員　虫食い状態だから、そうはいかないのだけれども。

○笠井市長　ですから、それは、これからはそういう風に、きちんと梨が安全にできる場所と住宅地というのは、ある程度すみ分けをしなくてはいけない。市民からもいろいろな意見も聞くので、今の話は宿題ですね。

○秋谷議員　当然、苦情は行っているのでしょうけれども、そこを農家との間にワンクッション、市の方である程度のところは、市の方がＰＲしてもらわないと。

○笠井市長　そうですね。

○秋谷議員　梨農家に直接、苦情が行かれちゃうと困ってしまうので。

○笠井市長　梨というものをもう少し、生産過程も含めてＰＲするということですね。

○秋谷議員　そうですね。それでやってもらわないと、ブランド化、ブランド化と言いながら、実際は、梨農家は生産するのに大変な状況になっているので。

○笠井市長　わかりました。そこは何ができるか、今すぐ答えられないですけれども、住民も預かっているので。どういうのが一番いいのかということで。

○秋谷議員　両方から苦情あると思うのだけれども。

○笠井市長　そうですね。

○田中議員　今のは、11ページに書いてある農業施策に期待すること。

○笠井市長　はい。

○田中議員　重要性に対する市民の理解の醸成。

○笠井市長　そうですね。

○田中議員　これが今のことだと思いますね。

○笠井市長　はい。

○田中議員　確かに、子どもたちが小学校に行くときに農薬をかぶってしまったというようなお話も何回も聞いておりますので、ぜひ市の方でいろいろと検討していただいて、ご理解を得られるようにお願いができればと思います。

○秋谷議員　理屈ではわかるのだけれども、実際に新しく移住してきて、白井市は初めて梨はこんなに薬かけたりするのだという人もいるかもしれないので、その辺のところもＰＲしてもらうと。

○笠井市長　そうですね。農薬の安全性と必要性という話ですね。

○秋谷議員　そう。

○笠井市長　今日は、そういう意見を聞きながら、具体的にどういうような、市としてできるかを探りに来ているわけですから、できないものはできないし、できるものは、次の5年間の計画の中に具体的に取り組みたいと思いますので。

○秋谷議員　抽象的にこうやって言うと、すばらしいことなのだけれども、実際は一から具体的にやってもらわないと、前に進まないので。

○笠井市長　はい。
　せっかくの機会ですし、皆さんが普段、白井市はいろいろな人が入ってきて発展したのはいいのだけれども、一方でいろいろな弊害があるのも事実です。苦情、要求も非常に多くなってきていますし、今まで生活が若干、何かいろいろな意味で変わってこなくてはいけない部分というのも出てくることは承知しています。なかなかそういう厳しい状況に置かれているのは十分わかりますので、率直にご意見を頂ければと思います。

○しろい梨観光組合　今、農薬の問題が出ましたけれども、白井が一時、宅地の虫食い状態。それですぐ近辺まで住宅になった。それで薬がけの問題が起きる。それはわかります。
　それから、一番私の肝心なところなのですけれども、10ページにありますけれども、農業。これ、梨栽培の面積が書いてありますけれども、この少なくなった分、それは今現状どうなっていますか。ほとんど空き家、空いた畑になっていますか。

○笠井市長　現状は、全部はまだ分析していませんけれども、耕作していない土地。そこに資材置き場になっているところも一部あると思います。けれども、ほとんどは手つかず。

○しろい梨観光組合　手つかずでしょう。

○笠井市長　はい。

○しろい梨観光組合　だから、それが、変な言い方かもしれないけれども、私の勝手な考えだけれども、16号線からこっち、住宅地。こっちだけでどのぐらいの面積、空き地があるか。では、何で空き地のままか。それが一番問題ではないかなと。

○笠井市長　そこは、一番の問題は、農地を守るということで規制をかけているからですね。結局は転売もできないし、今の活用しかない。そこに宅地に転売をすれば、またさっきの問題が起きるという。

○しろい梨観光組合　それはわかります。けれども、近接の市町村でいけば、転用できないのは白井だけですよね。印西市、鎌ケ谷、船橋、転用できましたよね。白井だけが今、農地転用、何もきかないですよね。畑は畑のまま、山林は山林のまま。転用ききません。だから、そういう面が何で白井だけが遅れているのか。遅れているという言い方は申し訳ないですけれども、先に進まないのか。だからといって、前みたいに虫食い状態になったのでは困る。けれども、規制を強くしてもいいから、その転用というのも必要ではないかなと私は。

○笠井市長　わかりました。そこはすぐに即答はできないというのは、いろいろな人がいますし、い

ろいろな考えがあります。地域によっても、農業を続けていきたいから、今のままで税金面でも優遇してほしいという人もいますし、もう後継者がいないから売りたい、転用したいという方もいますので、そこは今すぐ解決できる話ではなくて。

なぜ規制をかけたかといいますと、虫食い状態を避けるためです、端的に言いますと。人口がどんどん増えてくれば需要があって、農地でも買いたい。でも、実際、今、人口が減っていますので、農地は、ほとんど買わない人が多いです。宅地もなかなか売れない状況の中で、そういうところはあります。ただし、今、言っていたように、ずっとこのままでいいかという議論もあります。

今つくった計画がありますから、今後は、その住んでいる地区の農家さんたちにいろいろな意見を聞きながら、これからの農業をどのようにしていくのか。後継者がいない荒れ地をどうしていくか。そういう議論を通して、それこそ地域に合った計画というのをつくっていかなければいけないと思っています。

そうしなければ、虫食いの問題もできますし、結局は荒れた土地があって、農業をやっている人たちに迷惑を掛けるということもありますので、そこはこれから考えていかなければいけないテーマだと思っています。ただ、今すぐそれができるかといいますと、今言ったように、とりあえず規制をかけました、もう虫食いやめましょう、もう人口も増えてこないのだからと。だから、当分それの様子を見ながら、ある一定の時期、社会が変わってきて、白井にはどんどん人が入ってくる。工場が白井に来たいという状況になってくれば、それは地権者、農家さんたちと議論を始めなくてはいけないと思っています。すみません、明確な答えがなくて。

○しろい梨観光組合　いえいえ。

○笠井市長　ただ、問題意識は持っています。

○しろい梨観光組合　一番問題になると思います。というのは、梨だから年とったからできないという人も結構いますよね。普通畑ならできるかもしれない。だからといって、貸すということもできない。例えば、白井の中で調べてみたら、農地を貸す、農地で貸した場合には1反3万ぐらいかな。2万、3万では、どこに貸すんだか。税金が出ますから。

○笠井市長　この問題はわかります。秋谷議員さんも、実は一般質問でこの問題をしていて、いろいろ回答させていただいた経緯がありますので、今言えることは、今まだ梨をやりたい人たちがいますので、この人たちを確保なり、守ることが優先で、その後、次の世代のときにどう変わってくるか。あとは社会情勢が、本当にこの白井に住宅を求める人が多くなる、企業が来るとなってくると、そこはもう一度、今やっているものも見直ししなくてはいけないと思っています。

ですから、この問題というのは、これからも継続しながら考えていかないといけないと思っています。

○しろい梨観光組合　今の意見ですけれども、貸さない限りは、転売しない限りは人が入ってこないのではないですか。せっかく今回、商業施設できますよね。今つくっていますよね。ああいうのができて、ああ、住みやすいなと思ったときに、今の時点だと、そこに住みたいと思っても住めないわけですよね。そうなっていると、丸っきり逆な気がするのです。

○笠井市長　1回虫食い状態があったので、ここをもう一度少し整理をして、止めて、それからまた今度は次のステップに行こうということにしたのです。今まで本当に農地のところに家が建ってきて、この建った人たちがいろいろな問題があったと。だから、そうするのではなくて、もう一回この虫食いをやめてから、もう一回整理をして、そして考えていこうとしたんです。ただ、今言ったよう

に、もうそろそろそれも見直したほうがいいという意見なので、今後はいろいろな社会情勢なり、需要と供給が変わってきて、本当にどこかの。

○しろい梨観光組合　市としては、例えば企業の誘致とかは。

○笠井市長　市として見れば、企業を誘致するためには、設備投資しなくてはいけないのです。企業が来るためには、道路、下水、水道がなければ企業は来ません。

○しろい梨観光組合　企業が来ないと、そういう整備をしないと企業は入ってこない。

○笠井市長　そうですね。

○しろい梨観光組合　そうすると、企業が入ってこなければ人も増えない。言っていることが丸っきり。さまざまやってから、やってからのほうが。お金は掛かるかもしれないですけれども、それをやらないと企業も誘致できない、人も入ってこないという状況で、どんどんどんどんマイナス、マイナスになっている。

○笠井市長　今は、やってみるのではなくて、今ある土地をもっと活用しようということが大前提。その中でもっと拡充になってきて、いろいろな需要が出てくれば、当然、地目の見直しなんていうのも考えていかなくてはいけない。

○しろい梨観光組合　増えてくるというのは、どういうことですか。

○笠井市長　需要があるからですよ。

○しろい梨観光組合　需要はどうやってつくるのですか。

○笠井市長　当然、企業とかいろいろなところの人たちが、この魅力ありますよということで来るわけですよ。

○しろい梨観光組合　魅力発信はしているわけですか。

○笠井市長　そうです。

○しろい梨観光組合　白井に魅力があると思う者は来るのだよ、白井に。印西に魅力があると思う者は印西に行く。

○笠井市長　実際、国道16号線のところを見てください。あそこに新たな企業ができましたよね。だから、ああいうふうに、これから16号の沿線、464号の沿線、そういうところには成田から近い、都心から近いというメリットがあるので、企業さんが来る可能性はあるのです。だから、そういうところは、まずどんどん入ってきて、そこからもっと需要があって、道路もないのだけれどもということがあれば、そこはやっていかなくてはいけない。ただし、さっき言ったように、もう日本の人口は減っている。日本の企業も衰退してきているのは事実です。そういう中で、ここだけがずっと潤うかといったら、それは難しい判断。

○しろい梨観光組合　白井市から企業誘致は、ＰＲとかというのは特にはしてなくて待っているだけですか。

○笠井市長　企業誘致を進めている組織はあります。ただ、人の土地なので、ＰＲしたって人の土地ですから、勝手にやるなとなりますので。白井市が工専区域として定めるところには、もうほとんど企業が入ってきています。

ただ、見ていただくとわかるのですけれども、駅前なんかはまだ若干あるのはありますけれども、そこは市の土地ではありませんし、そこは地権者さんのいろいろな理解、協力がなければいけない話なので。

ただ、市長になってから、いろいろな企業の方から話があります。今、印西市はすごいですよね、物流施設がいっぱい来て。あれは何がいいかというと、印西市の場合、白井もそうですけれども、地盤が固い。地震に結構強いということ。そして、電力供給も結構しっかりしていると。そういう面から、電算会社とか物流施設が来るのですよね。よく企業の方にも、白井市には、もし土地があればぜひ来たいという話は聞きます。だから、自分の中では、うまく活用できれば、まだまだいろいろな人たちが入ってくる要素はあります。ただし、これは千葉県もそうですけれども、もう人口が減っていくことが目に見えているので、今ある土地をまずはちゃんとしっかりやってよというのが今の流れです。

○しろい梨観光組合　参加した人の顔を見ると、梨専業農家でやっている方が非常に多いですけれども、今の空き地、誰か借りる人いるかといったら、自分の仕事だけで手一杯で、できればいいなという考えだけで、実際にできるのは、ほとんどいないと思います。自分は、七次土地改良の換地で今、仕事させてもらっていますけれども、やっとできたと思ったら、草が生い茂っていてがっかりしているのですけれども。それとあと、梨農家も結構、梨畑は一つ一つ大きいではないですか。

後継者がいないと、どぼどぼと抜けているところが白井にもだいぶ増えてきているのかもしれないですけれども。うちの支部も最初35軒ぐらいあったのですけれども、今は18軒。それで、後継者いないのが4、5軒ありますから、最終的に10軒残ればいいかなという感じですけども。

それがどうしてそうなってきてしまったのかということを考えると、野菜もそうですけれども、輸入品。それから、企業が儲け。幾ら市場へ出したって、ここ何十年、価格は変わりません。私、始めてからもそんなに変わっていないと思う。資材、農薬、肥料はどんどん上がっているのに、それでは、子どもにやれと言えないし、やってほしいとも思わないという人がどんどん増える。それを市だけでどうにかしてくれというのも無理な話。今、聞いていて、これは無理だなとは思いますけれども、どれだけ市がバックアップできるか、もうちょっと考えていただければ。

○笠井市長　はい。ありがとうございます。

全くそのとおりで、国がどんどん輸入とかもオープンにして、関税を引き下げてしまえば、当然、国産品というのは、なかなか高い土地で農業やっていますから、価格競争に勝てない。大規模なところと家族経営のところでは勝てないですよね。ですから、家族経営の農業をどうやって守っていくか。これは日本特有で小規模ですよね。でも、国が今やっているのは、もっと面積を大きくして、企業化と言っていますよね。これでは、もう一部の企業なり、一部の資本のあるところしか勝てないわけですよね。

ですから、これは国を挙げて、家族経営の農業をどうやって生産性と収入を安定したことをやっていくかというのは課題です。ただ、国だけではなくて市としても、それに対して、国と県と市で上乗せできるものがあるかどうかを考えていかなくてはいけないと思っています。だから、この問題、誰も答えを持っていないと思うのです。

○しろい梨観光組合　持っていない。わからない。

○笠井市長　わからないですよね。だって、国の政治家、国会がやっていても、なかなかこの問題をできないし。ただ、何もしないでいいかという話ではないと思います。本当に日本の食料をどうやって確保していくのだという大きな話なのですよね。農業を守ることが、イコール食料をどうやって守っていくかだと思っていて、これは今後ともいろいろな現場の人たち、行政、県、国といろいろな議論をしていかなくてはいけないと思っています。

○秋谷議員　このこととも関連するかどうかわからないのですけれども、明日、手賀沼土地改良区の理事会があって、理事会といっても13人。手賀沼近辺で農家をやっている3,000人を代表して、実は暮れに、柏の議員さんの紹介で農林大臣のところに陳情に行って、15分だけもらって、一応、こういういろいろな話を15分間、短い間したのですけれども、途端に、行った後に農林大臣がすぐ代わってしまって、また行かなくてはいけないのですけれども。実際は、細かいこういう梨農家だけではなくて、さっき言った3,000軒のうち、ほとんどが水田農家なのですけれども、同じようなことを、農林大臣はわかった、わかったと言うのだけれども、隣の事務官に、大臣、余りいい返事はするな、なんて言われながら、私たちは苦情なり、いろいろな施策のことを言うのですけれども。国も今、見てのとおり、大変困っているみたいなので、もちろん大臣にそれなりの力はあるのでしょうけれども、私たちもどう言っていいか困ったような状態で。もちろん、また行くのですけれども、そんな状態で。

白井市の話になると、私とせがれと認定農業者で1月28日に説明会があるのですけれども、もちろんやっていくのですけれども、議会の中でどうかというと、田中議員みたいにわかってくれる人はいるのですけれども、実際、農家代表の議員は私一人になってしまったので、声が小さくなったこともある。田中議員さんみたいな議員が増えてくれれば、こういうのもあちこちで出るのでしょう。

今日最後まで聞いていきたいのですけれども私は、ここで退席させていただきます。大変申し訳ないです。本当にありがとうございました。

○田中議員　私は農家でも何でもなく、西白井に住んでいまして、梨畑のところがいわゆるミニ開発になってきて、行き止まり、行き止まりというような形になってきた中で、今、南山中学校の前の梨農家さんのところも、既に相当広い空き地になってしまっています。放棄地というのではなくて、梨をやめた土地ですよね。それと、風間街道の丁字路のところにも、でかい空き地ありますよね。それと、最近見たのが、西白井消防署の反対側のところが、相当大きな形でやはり広くなっているわけです。

先ほど、そちらの方がお話になった、企業が白井市に来たいのだと言ったときに、それこそ農転の問題だとか、いろいろな法的な問題があるので、逆に言えば、条件を結構きつく、例えば、何メーター道路に沿っているところとか、そこに下水が入っているとか、そういったところは、企業がここに置きたいのだと言ったときにすぐ対応できるような、そこから農転をやったり、生産緑地を変えたりとか、いろいろな形というのは、なかなか難しいので、その条件を厳しくしながら、白井市独自の誘致みたいなものができたらいいのかなと私は考えて、ご案内の中に、後継者がいなくなった後の農地利用ということを今回のテーマの中に入れさせていただいたのです。

それで、先ほど皆さん、お手を挙げられて、俺は農業やっていくのだよ、梨つくっていくのだよという方がほとんどなのです。でも、次、2代目、3代目はどうするのといったときに、やはり不安になっていく。そのときに、せっかく地盤のいい、都心にも近い、成田空港にも近い白井市が、みんな今は印西、鎌ケ谷にとられているわけです。簡単にOKが出ますので。ですから、その辺のところを農業はすごく法律とかも難しく絡んでいますけれども、市の方に勉強していただいて、そういう土地に関しては、こういうふうに持っていきましょうとか。よく私なんかが一般質問すると、そこをやっ

てくれる人を探すみたいなお話とか。次に誰かがやってくれるのを探しましょうよとか、ブランドといったら、では、こうしましょうとか。そういうことだけで、実際に今、本当にやめられたところが生きていないような、住宅以外で生きていないような状況なものですから、非常にもったいないなという感じがありまして、いろいろなお話をした中で、一番の問題は何ですかと聞いたときに、先ほどの11ページにある耕作していない農地の活用。これもやはり皆さん方のアンケートの中では非常に多かったという形なので、例えば、最悪やめたときにでも、その土地で多少の利が生めるような、売るばかりではなくて貸せるとか、そういうような形のものを皆さん方から市長のほうに検討していただきたいということでお願いが上がってくれると、すごくいいなと思って、今回の2番目のところに入れさせていただいた状況でございます。

すぐやりますよ。なんていうようなことは、当然言えないのですけれども、そういう皆さんのざっくばらんなお考えを今日はお話しいただいて、先ほどお話ししましたように、後期基本計画というのをつくり始めますので、そういう中にでも少し入れてもらえるような方向で前向きに進んでいけばいいなと思って、今回、こういう場を開催させていただいたわけです。

○しろい梨観光組合　農地転用の話が続いているので。私が見るかぎりでは、前市長は工業団地、一生懸命やっていましたけれども、今、工業団地内の農地を見ると、ところどころ当然あるわけですけれども、あそこは自分も希望したわけでもなく、いわゆる市街化というか、工業団地用地になっているわけで、その中に入っている農地を一生懸命守りたかった人たちは、今度、売らないで取り残されてしまっているのだけれども、もう自分は70、80になりました、もうできません。でも、市になったときに、生産緑地か農地か選べと言われて、しょうがない、税金払えないから、生産緑地を選びました。でも、今できないようになってしまいましたという方がたくさんいらっしゃると思うのです。

もしくは農地、相続でたまたまかかってしまったので、納税の猶予を受けてしまった。そういう人たちは、取り残された感が物すごく強いと思う。次が農家やるかといったら、やらなくて、俺、生産緑地選んだのは失敗だったというような人も出てくると思うのです。特に、あそこの中で野菜つくっている方たちは、物すごく大変だなと思うのですけれども、その辺から手をつけてやったらどうかなと思うのですけれども。どうでしょうか。

○笠井市長　確かに30年、その代であれば、そのまま生産緑地は生きるのですよね。けれども、その方が亡くなれば、また生産緑地というのは解除になるのですけれども。

確かに今言ったように、まずは工業団地の中の生産緑地をどうするか。何度も言うようですけれども、需要があって、もっと工業団地を広げてほしい、あそこに来てほしいとなれば、当然、需要とさっき言った農業がこれからできない人のいろいろな意見を聞いてやるべきだと思います。市が何とかやってくれる、そうではなくて、持っている人たちも、これからどうするかということを考えてくれないと、なかなか手をつけられないのが実態です。

○しろい梨観光組合　感じ的には、だいぶ名内の人たちも行商は終わって、もうできないという人たちで、後継者がいない人が大半のような気がするのですけれども。

○笠井市長　そうですね。今、350社ほど工業団地の中に入っていますけれども、もう少し広げてみたいという意見もあります。ただ、本当にあそこで農業やる人たちが全員かというと、また少し考え方が違うと思うのです。そこは、あそこに住んで農地を持っている人たちと話し合いをまずしないと、先に進まない話ですよね。

○しろい梨観光組合　農家もやっぱりそこはずるいところであって、自分の土地だから自分の自由にしたいというのがほとんどの人なわけですから、売りたいときに自分が売りたいし。売れと言われれ

ば嫌だと言うしというのがあるので、そこが本当に市の方ではできないというのは、もちろんだと。

○笠井市長　ですよね。だから、もうそろそろ次の10年を考えて、地域ごとにいろいろな話し合いで次の農家をどうするのか、農業をどうするかを本当にやる時期に来ていると思います。
　平成27年度から、担当課に聞いてみますと、個別に地区でいろいろな話し合いをするけれども、なかなか人が集まって来ない。関心がまだあるところとないところの温度差があるということなので。ただ、国も含めて、これからの農業をどうするかと考える時期には、もう来ていると思います。

○田中議員　生産緑地の縛りは、30年ですよね、たしか。

○笠井市長　30年ですよ。

○田中議員　鎌ケ谷さんは10年にしたと。

○笠井市長　それは法律の施行日の問題で、昭和六十何年以降は10年とかあって、それ以後は30年とかになっているのですよね。

○田中議員　それと、市のほうで借り上げ制度があるというのです。

○しろい梨観光組合　だから、さっき議員も言ったけれども、西白井の消防署の辺りは、もうニュータウンの生産緑地だから、とっくに全部自由なのです。

○田中議員　そうですね。

○笠井市長　そうですよね。うちも借り上げ制度はあります、解除するときには。それで冨士の公園をつくりました。まずは市のほうので、それを使いますかと打診が来ます。市で土地は要らないとなってくると、次の手なのですよね。

○田中議員　あそこは何でもできるのですか。解除できているのですか、もう。

○しろい梨観光組合　低層住宅とかの区域でしょうけれども、解除になるのではないですか。地主さんが市と県に申請すれば。

○笠井市長　ニュータウン地域も部分的に解除になってきています。審議会にかかって、例えば資材置き場に一部したいというのも来ています。

○しろい梨観光組合　市が買いたければ来ますね。買わないでしょうけれどもね。

○笠井市長　買えないですよ。

○しろい梨観光組合　逆に売りたい方でしょうから。

○笠井市長　はい。

○しろい梨観光組合　今、農地は農地でそのままではないですか。例えば、企業があるではないです

か。柏なんかは今、企業が障害者を集めて農地で農産物をつくっている、大企業が結構やっているので。そういうのを例えば、すき間ができてしまったというのであれば、それでもできない方はいらっしゃるじゃないですか。逆にすごく大きい土地を持っていても、ただ耕しているだけとか。そういうところを市のほうで優先的にどうですかという話とかというのは、してはいないのか。

○笠井市長　考え方としてはあるけれども、実際に動いているかというと、自分の中では把握していません。でも、今話したように、大規模農業は、工場みたいなものをつくって、そこで効率よく野菜をつくれて、今流行っていますよね、企業がね。それも一つの選択肢だと思うのです。ただ、まとまった土地が本当に確保できていて、企業が来るのですから、道路もあって、いい条件のあるところかどうかだけですよね。ただ、今おっしゃったように、農地を残すため、農業を維持するためには、そういうものも選択肢の一つだと思います。

○しろい梨観光組合　今こうやってそんなに大きくないかもしれないけれども、もうちょっと小さい中小企業ならそのくらいでいいやというところも、もしかしたらあるかもしれないので。そういうのを考えて。

○笠井市長　そうですね。それも考えなくてはいけない。オランダは、農地はすごく狭いのだけれども、効率がよくて、よく農業でもうかっているのはそういう発想なのですよね。企業、いろいろなものを使いながら、生産力を高めて、品質価値を持っています。だから、よく日本の農業もオランダに研修に行く人たちが多いと思うのだけれども、そういうのも一つだと思います。
　それと、今考えているのは、荒廃地に薬草とか結構あるではないですか。薬材とか。それを何かつくりたい人がいるというようなことも聞くので、そういうことも含めて、いろいろな人の知恵を借りながら、されていない土地というものの活用というものを考えていければと思います。
　ただし、全部これ、市がやるわけではないですからね。当然、皆さんもいろいろな知恵を出して、まず自分の土地をどうやって守って維持しなければいけないのかもやらなくてはならないですよね。

○しろい梨観光組合　もう一つあるのですけれども、例えば、もう大分年になってやれなくなってきているけれども、まだもう少しやりたいという方もいらっしゃるかもしれないですよね。そういう方は機械とか全部持っているではないですか。例えば、農業学校の学生さんとかと、市の方で連携をとってもらって、研修がてらにやってもらうとか。そういう形とかはないのですかね。

○笠井市長　そういうことをやっている人もいます、実際に梨屋さんでもいます。

○しろい梨観光組合　それを、だから、市のほうで補助して、体制をつくっていくとか。

○笠井市長　でも、全て市と言うけれども、何度も言いますが、市が何をやればいいかということと、皆さんも知恵を出して行動することも大事だと思うのですよ。今の話は、自分の中でも、ある地区ではＮＰＯ法人みたいな企業が仲介に入って、農地の集約をして農業技術を教えて、更に講師として地主さんにやってもらうということの仕組みもあります。そういう勉強もしながら、この市に合ったことは考えていきたいと思います。

○しろい梨観光組合　今、梨の枝をフジコーに運んでいるのですよ。ただ、寒いとき、18 リットル缶で火を燃やして手をあたためていても、役所から注意が来る。洗濯物が汚れるとかそういうところまでではなく、どうやっても手が寒いからやっているが、そういうときに市役所から、「済みません、消してください」、「通報がありましたから」と。その辺はちょっと限度を考えてもらって。洗濯

物が汚れるくらいのものならいいですよ。役所の人も大変でしょうから、手間が掛かるから「消してください」とまで来るには。

○笠井市長　はい。言っていることはわかります。今度は立場を変えて、役所からすると、屋外燃焼行為なのですよね。屋外で火を燃すことを。条例上、屋外燃焼行為というのは禁止なのです。

○しろい梨観光組合　でも、農作物は除外となっていますよね。

○笠井市長　ただ、屋外燃焼行為というのは、通報があれば、ある程度対応しなくてはいけないので。

○しろい梨観光組合　その辺を役所の人が、洗濯物汚れていますとかだったら分かりますが、マンションから見て、ちょっと煙がもやもやと上がっているから、すぐ消防署と警察と役所に電話して。それでは困りますよね。

○笠井市長　確かに、苦情を言われて、仕事が停滞することはあります。

○しろい梨観光組合　役所の人が２人でわざわざ来て、あれなら、もっといい仕事やってもらって、市民だって税金払っているのだから、あの程度でお願いしますと来て、消すまで見ていって、通報ありましたからと。これでは、市役所の人も、せっかくいい大学出て立派な人が、ちょっともったいないよなと思うのですよね。

○笠井市長　なるほど。

○しろい梨観光組合　もやもやと煙が出ていたらしょうがないですよ、本当に。ただ、ぽやぽやとぐらいでは、その辺、どのぐらいですかと環境課の方で言ってもいいのではないですか。さっきの農薬ではないけれども、同じようなやつだけれども。

○笠井市長　そこは明確な答えはできないのですけれども、通報があった場合については、やはり現地に行かなくてはいけないというのがありますから。

○しろい梨観光組合　それで、消してくれまで言うのだものね。

○笠井市長　だから、そこはいろいろな立場がありますので、すぐどれがいいかというのはなかなか回答できません。ただ、そういう現場の意見というのはわかりました。

○しろい梨観光組合　野焼き防止法とか何とかというので、あの法律でしょう。

○笠井市長　公害防止法か何かですね。で、野焼きと。

○しろい梨観光組合　でも、最後のほうに、たしか農林漁業の従事者はと書いてあるのです。

○笠井市長　わかりました。

○しろい梨観光組合　あの市役所のやつにも書いてありましたよ。

○笠井市長　そうですか。

○しろい梨観光組合　農作物はどうとかって。

○笠井市長　自分も全部知っているわけではなくて、自分の経験では、屋外燃焼行為というのは全部禁止という。ただし、こういうものについては除外するとあるのですね。

○しろい梨観光組合　だって、18リットルのオイル缶で燃やしていても来るのだからね。それでは困りますよ。

○笠井市長　他に何かありますか。6万3,300人いますと、いろいろな市民の方がいるのは事実です。何度も通報する人もいますし、今言ったように、おおらかで、まあいいよと言う人もいますし。その中で対応しなくてはいけないということだけは理解をしていただきたいと思います。

○しろい梨観光組合　先ほども言いましたけれども、国で進めている多角化、農業法人化の。あれをやられたら、絶対に、私の個人の考えでいけば、昔の江戸時代の地主と小作人の関係になるではないですか。それが、一番怖い。まだ働けるから、うちは農地やってくれ、畑つくってくれと。だから、俺もまだ働けるから、働かせてくれ。丸っきり昔の小作人と地主の関係になるではないですか。それで今の農家でも、白井なんかもそうなのだけれども、先ほど私、転用がきかないと言っていますけれども、現に今、宅地で貸している人、農業以外の所得がある人、これが一番、農家が裕福ですよ。畑は白井は、転用がきかない。農地なら農地のままで買おうか。さっき、平塚じゃないけれども、田んぼ１反、数十万。そういう田んぼが出てきていまっている。それでは、いいや、俺、子どもに残しておくから買っておこうかなと、そういう人が現れるのではないですかね。それとか、法人化でやっている人が、裕福だから買っておこう。もっと面積を増やす場合は、国からの補助ももらえる。その補助を当てにして、どんどん広げていく。そうすると、これ、昔の本当に丸っきり農家の姿。地主ですよね。地主と下にいる小作人ですよね。その関係にならないかなと、それが私、一番心配なのです。

○笠井市長　なるほど。それはＪＡの人も言っていました。規模を大きくして効率だけ議論してしまうと、そういう現象が起きる。だから、ＪＡの人が言っていたのは、家族経営の農業もちゃんと守ってほしいと。

○しろい梨観光組合　そうです。それが一番。

○笠井市長　その上で、大規模化とか効率化をやってほしいということを訴えていました。それを聞いていて、そうなのかなと。日本の特徴というのは、家族経営なのです、ほとんど。

○しろい梨観光組合　家族経営です。

○笠井市長　それで、何かいろいろな品物をつくって、工夫をして付加価値をやっていたのですよね。それを守らないで、ただ１点のものをいっぱいつくればいいという発想になってくると、農家そのものが衰退してしまうという意見でした。

○しろい梨観光組合　崩れますよね。今、現にもう船橋でも在来地区の方は、農業法人化で来ていますから。ネギならネギだけつくって、野菜なら野菜だけつくって。それで土地を返してくれるのかというと、保証がない。農業委員会なんか入っているから大丈夫だろうと。けれども、大丈夫だろうと

言う割に、国からの補助金もあって。その補助金をもらっているというのがあるし、何年かは続けなさいと。それが一番怖いのではないか。

○笠井市長　そうですよね。だから、本当にこの問題は、いろいろなそれぞれの立場、それぞれの状態によって、考え方が全く違う。そういう中で、どうやってこの農業全体を盛り上げていくかというのは、これはすぐ答えが出る話ではなくて、市長が変わったからといって、すぐ、こういうふうにしますよと言ってできるものではなくて、いろいろな現場の人たちの話し合い。意見を聞きながら、そして、この白井市に合った農業というものをやっていかなくてはいけないと思います。
　ですから、今日はいろいろなご意見を聞きましたから、その中で、この５年間で何ができるか、何が重要かというものをもう一度考えさせていただきたいと思います。

○しろい梨観光組合　だから、前にも市長に言ったことありますけれども、隣の冨士から来ている人。現に子供、旦那が亡くなった。子供が２人、これが身体障害者。どうにもならない。もう、しようがないから、兄貴夫婦に入ってもらおうと思っているけれども、うちを建てることも不可能。そういうのも何とかならないか。

○笠井市長　そうですね。

○しろい梨観光組合　何というか、規律そのものは厳しくても、結構。今より厳しくして構わない。けれども、どうしようもならない状況というものを白井市の中で何とかならないか。それは思います。

○笠井市長　言っていることは十分わかります。ただ、虫食い、ここだけ特例というのはいかないですからね。

○しろい梨観光組合　そこだけというのは難しい。

○笠井市長　そこは地域全体でどう考えていくかにもしなくてはいけないので。

○田中議員　他に何かございますか。

○しろい梨観光組合　もう一ついいですか。

○田中議員　どうぞ。

○しろい梨観光組合　個人的なのですけれども、実は、梨畑にベイシアが来るからと。この間、話があって、今度、市長さんがかわるから、取りやめにしてくれと。スーパーね。そんな話があって。今度は市長さんが変わるまで役所の方が待ってくれと。それで一時中断して、変わってから、６m道路をつけないとだめだと。結局、話がお流れになってしまったのです。ベイシアが計画を出して、どんどん進んだのです。ただ、木下街道と北環状に６m道路つけろと、市役所が今度言ってきて。

○笠井市長　それは、市長が変わったからと言っているのですか。

○しろい梨観光組合　違う、違う、そうではない。市長が変わってから、そういう話になる。それまでは話を結構ベイシア側が出していたらしいのです。市長、今度変わるから待ってくださいと。担当

課も変わるからと。今度、変わってから、６m道路をつけてくれないと、突き抜けを。

○笠井市長　そこは、正直言って、自分の中でそれは知りません。

○しろい梨観光組合　一応、商業地区にもなったから、開発行為申請して、６m道路つけてくれと市役所から言われたみたいですね。

○笠井市長　そうなのですか。

○しろい梨観光組合　納税猶予を受けてしまっているから、６m道路はつくわけないのですよ。

○笠井市長　なるほど。そこは自分の中で、正直にそれはわかりません。

○しろい梨観光組合　一応、全部借りてくれる約束になっていたのです。それが市長さんが変わってしまったから。

○笠井市長　人のせいにされては、だめですよね。自分が変わって厳しくしたわけではないですから。

○しろい梨観光組合　向こうも濁していたのですよ、きっと。個人的な話ですよ、今言っているのは。

○笠井市長　そうですよね。そこは正直言って知りません。

○しろい梨観光組合　でも、図面をつくって、申請用紙なんか全部出して持ってきたのです、業者が。商業地区に市のほうが指定しているのですから、あそこ。

○笠井市長　公益的施設誘導地区ということでね。自分はその後、何か条件を出したということはありません、正直言って。もう進んでいた計画に対して、これはおかしいから止めろとか、そういうことはないです。

○田中議員　いかがですか、あと。もう残り 10 分ぐらいなのですけれども。
　市長、ここは第三小学校区の方の方が多いのでしょうけれども、例のまちづくり協議会、自分のところは自分たちでやりましょう、できることはという中で、例えば、農地のところも含めて、ある程度の要望というのはできるような方法はあるのでしょうか、まちづくり協議会の中で。困ったことは三小の区域の中で、耕作をやめた土地が点々とあります。これを有効に利用してほしいというのを、いわゆる地域の課題として挙げた場合に、いかがなものでしょうかということです。

○笠井市長　まちづくり協議会の中で議論をするということですか。

○田中議員　はい。議論して、それが出てきたときです。

○笠井市長　まちづくり協議会の目的というのは、地域が、みんなが共有する課題。例えば防災だったり、防犯だったり、そういう課題がメインだと思います。個々個別の農地をどうするかという話は、みんなでそれは議論をしてまとまる話ではないのではないかと思います。

○田中議員　いや、まとまる可能性があるから、今お伺いしたのですけれども。その場合は、ご提案という形で出せるのですかということです。

○笠井市長　第三小学校区が今、モデル地区なのですよね。第三小学校区というのは、ほとんど冨士とか白井木戸までですから、こっちは。なので、冨士なんかはほとんど旧地区ですよね。そういうメンバーです。
　あと、もう一個のモデル地区は、大山口地区です。これはほとんどニュータウンの人たちですから、そこの中で今、議論をしています。
　今、田中議員さんの話は、協議会の中でもそういう議論で、皆さんが議論できるかという話ですよね。そこの運営は、市が運営するわけではないですから。そのメンバーさんがこの地域の課題、ハード面では道路だったり、荒廃地の問題だったり。それは自由だと思います。そのメンバーが、それを議題にしていろいろ考えることは、市が何か言うことではありません。本当にさっき言ったように、これから白井がどうやって次の道筋をつくるときに、農業というのは大事なテーマだと思っていますので、そこはしっかりと考えていきたいと思います。それを含めて、道路も言われているので、そこも考えていかなくてはいけない話だと思います。

○田中議員　あと最後に、もうほとんど時間ないので、出前講座みたいなのありますよね。

○笠井市長　はい。

○田中議員　ですから、今日は農政や商工の担当職員のは来ていなくて、あくまでも市長の考え方を聞くという形なものですから、皆さん方のご希望等があれば、出前講座というので、農業の担当を呼んで、細かいところを聞こうと思えば、そういう出前講座もやっておりますので、ぜひお声をかけていただければと思います。

○笠井市長　今言ったように、この問題は一、二回議論したからといって何かできるようなことではなくて、継続的にいろいろな話をして、何か一つやっていかなければいけないと思いますので、今後、引き続き出前講座もありますから、いろいろな場で話し合いを持っていきたいと思います。

○田中議員　では、締めていただいていいですか。

○しろい梨観光組合　今日は、ご苦労さまでした。何か私の意見もまとまらないし、市長独断での判断、そこはできない状況。今後、これをこういう農家で土地持ちの人らで、また市長といろいろ話して、今後の方針を、農業の方針を決めていこうではないかと思っております。
　また何かありましたら連絡ください。市長の方を交えて、また担当を交えて、いろいろ話を進めていきたいと思います。
　今日はどうもご苦労さまでした。ありがとうございました。

○笠井市長　どうもありがとうございました。

○田中議員　お疲れさまでした。ありがとうございました。

―以　上―